

## 学校評議会議事録

日時 令和2年2月29日(土) 13:00~14:43

出席者 ●学校評議員

神戸赤十字病院

診療放射線技師

神戸市立医療センター中央市民病院

臨床工学技士

あさぎり病院

視能訓練士

神戸百年記念病院

理学療法士

株式会社セラピット

作業療法士

大隈病院

言語聴覚士

●学校職員

校長 各科より1名 事務担当者1名 計 8名

司会 学校評議会開式の宣言

学校長挨拶

着任4年目である。少子化の影響で230万人もいた子供が、去年は出生数が90万人を切る様になった。

高校生の進路選択では、専門学校より4大指向が強く、逆風に倒されないよう生き残ることが重要となっている。

校内では、学科間の風通しが悪く、学校の運営自体がよくなかった。しかし、この4年間で改革を進めてきたが、さらに推し進めていく。

そこで、学外から新たな視点での意見をいただき、より一層の改革へつなげたい。自己評価などの資料から意見をいただき、運営に反映したい。忌憚のない意見をお聞かせ願いたい。

司会 本日の出席者の紹介

学校評議員を、学科の設立順に紹介し、その後学校長をはじめ各学科代表者を紹介する。

司会 議長選出を行う。

神戸赤十字病院 放射線技師に依頼。

議事

議長

書記を事務職員に願いたい。よいか確認する。

議事録署名人は評議員より2名選出。

[いずれも反対意見はなく決定される。]

議事に入る

平成30年度学校自己評価報告書の結果報告を求める。

学校長

### 基準1 理念・目的・育人人材像

「医療保健の教育を通して、社会の要請に応えると共に、地域医療の発展に寄与する。」

この理念のもと教育に取り組んできた。その中で人間性、社会性、倫理性のもと、患者や家族を支える実践力ある人材の育成を目指し、教育に励んできた。

- ・ アドミッションポリシーとし、本校が求める学生像を明確にする。
  - ・ ディプロマポリシーは教育を通し、どのような医療職者を育てるか到達目標を明確にする。
  - ・ カリキュラムポリシーとして、その人材の育成するためそろえる教育内容の充実。
- これらは学校全体のもので、今後は学科個々のものを作り、高校の先生により明確に伝える

必要があり、作成に取り組んでいる。

社会ニーズに応じた改革を行い、全員の共通認識のもと、知恵と力を出し合い力強い学校を作り上げたい。そのためには教職員全体、さらに学生とご父兄にしっかり周知し、ご理解いただくことがまだ十分ではない。

## 基準2 学校運営

- ・ 経営と運営は少し違う。この両輪のバランスを取りながら運営していきたい。
- ・ 学生の確保が財政基盤である。学生を確保した上でポリシーに沿って教育を提供する。
- ・ キャンパスの安全安心が必要。学生だけでなく、教職員を含めて環境を整備し支援体制を作ってきた。

委員会の実施により、各学科間の連携が生まれてきた。今後は委員会の統廃合を含め整備し、引き続き運営を行いたい。

- ・ 教員と事務職員の役割分担を明確にしていきたい。
- ・ 事業計画の立案は直ちにおこなうこと、数年さらには長期に見据えた計画を立て、対応したい。これも教職員全員で知恵を出し取り組む。
- ・ 校舎も建築後 30 年経過している。傷みも目立ち、優先順位をつけて整備を計画的に行う必要がある。
- ・ 医療系の学校は、関係省庁の姿勢が運営に大きくかかわっている。全教職員のネットワークを活用し、早めに情報収集を行い分析し、対応することが必要。
- ・ 学校の最高意思決定機関とし、各学科長、理事長、校長、事務課長などで構成する運営会議がある。
- ・ 10 ある委員会は、学校長の諮問機関と位置付けている。

職員からの意見を関係委員会で検討する。その後全体会に諮り、最終的には運営会議で決定する。その各段階で、教職員の意見が反映されるシステムになりつつある。

- ・ コンプライアンスに関し、指定規則、労働基準法、消防法等を遵守し運営を行っている。
  - ・ 財務基盤は学生募集であり、広報入試委員会での学生募集活動と、医療法人慈恵会本部で財務管理を行っている。教職員の努力により学校単独でも赤字にならず安定している。
- 教育の充実→国家試験の合格率アップ→学生の確保といい流れを築き上げていきたい。
- 少子化、大学志向など必ずしも状況は良くない。目標に向かって工夫しながら対応していく。
- ・ 学校財産の図書、備品の整備を行い、各科で重複を避けるようにし、その費用で他の整備ができるよう工夫している。

指定規則に沿った整備を行った上、さらに本校独自の特色ある物を揃えることにより、その特徴とし売りにしていきたい。

## 基準9 法令等の遵守

- ・ 校長の視点から、全てにおいて法令遵守され、学校は運営されている。
- ・ 個人情報については、学生の実習先での関りもあり、しっかり管理されている。さらに指導は行う。
- ・ ウェブ上でのセキュリティーについては業者と連携し、より安全性を高める。
- ・ SNS によるハラスメントについて学生を指導している。

ポジティブな思考により学生を導くことが必要で、禁止するのではなく責任ある行動を求め、健全な学校運営を目指している。

議長 質問はないか

委員会はいつ行うか。

学校長 毎週水曜日の4時限には全教員とも授業を入れないようにし、その時間に実施している。ただし、毎月第1水曜は全体会。それ以外の水曜日に委員会や研修会を行っている。

議長 基準3 教育活動について説明を求める。

教員1

**基準3 教育活動**

- ・ 教育理念、目標、学校の3つのポリシーに基づき編成した教育課程により実施している。今後は、各学科でさらに3つのポリシーを策定し、カリキュラムを見直していく。
  - ・ 本年度から各科のカリキュラムを見直し、新たな教育に取り組んでいく。
  - ・ 実践的な職業教育を目的とし、各科でキャリア教育を実施している
  - ・ 教育評価は授業終了後アンケート調査を行い、集計している。
  - ・ 評価については卒業生に対してもヒアリングを実施している。
  - ・ 平成29年度までは専任教員のみであったが、昨年度より非常勤講師への評価も行った。今後は評価の結果を改善のために活用していく。また、キャリア教育については、多様化する学生をより細かく指導する仕組みが必要。
- 卒業生や関連業界から、外部からの視点や意見を取り入れることを検討したい。

- ・ 成績評価の基準を明確にし、学則等に規定する。
- ・ 各学科間の評価基準等について、共通理解を徹底するとともに、GPAの導入により適切な運営を図る。
- ・ 教職員の研修日は毎月第3水曜日とし、総務委員会で年間計画を立て実施している。

議長 質問はないか

GPAについて説明を求める。

教員1 本校で行っている成績評価ABC表記のものを点数化し、全ての科目の合計得点により総合的な評価を分かりやすくしたもの。

議長 基準4 学修成果について説明を求める。

教員2

**基準4 学修成果**

- ・ 平成30年度の就職率は86%であった。進学者2名、国家試験等不合格者が進路未定として31名13.2%である。

就職活動より、国家試験に合格する学力を身につけさせ、早めに就職活動ができるよう指導することが必要と考える。また、大学は就職活動の指導が徹底されている。本校でも面接、履歴書の書き方などの指導を検討している。

- ・ 資格免許の取得は全員合格を目標としているが、全国平均と比較し現状を見つめている。
- ・ 国家試験の傾向を分析し、各学科の現状と合わせ、国家試験対策授業を実施している。
- ・ 留年率、退学率を下げ、心理面のサポートとして常時学生と面談のできる環境を整える。
- ・ 学校生活充実のため、運動会、球技大会を実施している。今後部活動も検討している。
- ・ ご意見箱の設置により、学生生活の不安や不満を申し出るようにした。
- ・ 学期末試験の再試験を各学期に1回実施し、勉強したら合格できる達成感を体験させるようにしている。
- ・ 入学前教育プログラムを導入し、入学までに学力の向上を目指している。

留年率や退学率を低下させるため、教員と学生との信頼関係を育てられるような体制を作っていこうとしている。そのため、教員の指導方法や安心感の育成など、研修会で学ぶ方法などが課題となってきている。

- ・ 卒業生とのつながりを深めるため、ホームcomingデーの開催を行った。継続して実施する。

議長 質問はないか

議長 スタートダッシュが大切と考える。A大学では1年生が病院見学に来て、仕事の内容を理解している。心構えができ、国家試験に合格し、このような職場へ勤められるよ

う勉強しなさいと指導される。刺激になると思うがどうか。

教員 2 学科により温度差はあるが、職場を見学する学科、OB に来校いただき話を聞く学科がある。学科間でばらばらだったので、今後は統一できるよう準備している。

学校長 今各科でカリキュラム変更を行っている。変更の際、この様なことに配慮し取り組める様にし、チーム医療としてやっていけるようにすることが大切。

また、国家試験の合格率は無料の宣伝になる。モチベーションを高め、合格者が増えることは重要である。合格できなかった学生が多いと学校の評価が下がる。国家試験再受験者の合格率は 1/3 に下がる。国家試験不合格の卒業生に対する指導も重要である。

議長 基準 5 学生支援について説明を求める。

教員 3

#### 基準 5 学生支援

- ・ 就職支援とし、履歴書の書き方、面接・服装指導等各専門講師に依頼し、複数回実施。
- ・ 大学編入希望学生への個別対応も実施。
- ・ 学生相談に対応すべき窓口を作った。特にハラスメント対応には力点を置き対応。
- ・ ハラスメント防止ポスター、パンフレットを作成し啓発に努めた。
- ・ カウンセリングルームを設け、専門の担当者に気軽に相談できるシステムを作った。ハラスメントについては教職員も毎年順次、研修を受講している。より理解を深めている。
- ・ 経済的支援とし、各種奨学金制度の紹介や、本校独自の制度も用意している。
- ・ 毎年 4 月に健康診断を実施している。
- ・ 保健室の利用について全学科へ周知し、利用方法の共通化を行った。
- ・ H30 年度の入学者から、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘・B 型肝炎の抗体検査結果を入学時に提出する。臨床実習を考え、基準値未満の場合はワクチン接種を求めている。
- ・ インフルエンザ流行期など、教室等の入り口にアルコールスプレーを設置。嘔吐キットを校内 3 か所に設置している。
- ・ 保健対応マニュアルを作成し、全学科同一の対応ができるようにした。
- ・ 学生のレクリエーションの場としグラウンド、多目的スペースを提供している。
- ・ 保護者との連携では、学科により保護者会の開催や、三者面談を実施。今後全科に増やしたい。
- ・ 年 2 回成績表を保護者あてに送付するなど、緊密に連絡を取っている。
- ・ 学友会など卒業生への対応は十分でなかった。国試験不合格者等へ無料での授業聴講などの支援も実施。今後さらなる対応を検討する。

議長 質問はないか

議長 基準 6 教育環境について説明を求める。

教員 4

#### 基準 6 教育環境

- ・ 備品、図書管理用のシステムを導入し、各科統一の管理体制に移行してきた。
  - ・ 学習環境の提供として、学生食堂・図書室を開放し、定期試験や国家試験前など 20 時まで利用できるようにした。
  - ・ 安全対策のため、外部からの侵入に対するセキュリティを強化してきた。
  - ・ 学生の SNS 等の利用状況を調査し、学生や教職員を含め取り扱いの注意喚起をしている。
- 備品、図書のシステムは、現在一部稼働しているが、継続して整備、管理を行っている。また、校内バリアフリー化もより利用しやすいよう整備を進める。
- ・ 臨床実習については、実習方法を含め各科で共通して対応できるよう整備をしてきた。
  - ・ 学科により、実習指導者会議の開催、インターンシップの斡旋など個別の対応も行って

いる。

- ・ 防災対応備品の整理を順次進めているが、避難訓練等はさらに検討の余地がある。

議長 質問はないか

議長 基準 7 学生の募集と受け入れについて説明を求める。

教員 5

#### 基準 7 学生の募集と受け入れ

- ・ 広報入試委員会と入試広報係が中心となり、運営や活動を行っている。
- ・ 学校内での進路相談会や、学外のガイダンスへ教員が参加し説明している。
- ・ 高校の教員が本校へ来校し、見学や各科から説明を行っている。その高校出身の在籍学生と教員が面会する機会を設けている。
- ・ 平成 30 年度は中学、高校を対象とし、医療職種理解を目指し出前授業を行った。
- ・ 広報担当教員中心に、年 3 回高校訪問を行った。その高校の卒業生の話をするのととても関心をもって聞いてもらえるとともに、信頼関係を作ることができる。
- ・ 学生に出身校を訪問し、近況報告をしてもらっている。卒業生から在校生へ向けてのアドバイスを求められることもあるようだ。
- ・ オープンキャンパスを年間 12 回実施。社会人対象とし、夕刻に学外会場で実施。
- ・ 電子媒体への広報も積極的な取り組みを行っている。
- ・ 入学試験科目も高校生の教育課程変更や、大学入試制度の変更に対応していく。
- ・ 面接試験の評価基準を各科統一してきた。
- ・ 学納費用について、学費以外の諸費用についても明記してきた。

議長 質問はないか

学校を知ったきっかけに、ホームページの項目を上げる参加者が多数いる。

学校案内パンフはどちらへ配布するか。

教員 4 送付依頼があれば郵送するし、オープンキャンパス参加者には随時送る。高校訪問の際、持参する。

議長 オープンキャンパスに参加したことがないが、どのくらいの参加者があるか。

教員 5 年間約 1,000 人強。最も多い時期は 8 月で、1 回あたり 200 人余りの参加者がある。保護者の参加も多く、保護者への対応も別途行っている。

教員 4 家族全員での参加もある。

評議員 娘が高校 2 年である。パンフレットが送られてくるが、それを見ながら決めるようでもある。パンフレットは重要かと思われる。

校長 年寄りには DM のイメージが強いが、SNS の方法では何か物足りないような気がするが、若い人には向いているのかと思う。学生に意見をもらいながらパンフレットを作ることも必要かと考える。

評議員 息子が PT をめざし、昨年 4 月より大学へ進んでいる。30 年前の学生時代は願書の取り寄せてから出願であったが、今は WEB で業者へエントリーすることで、一括してパンフレットが送ってくる。個々の対応でなく、業者が一括対応している印象が強かった。子供は出願もスマホで済ませ、後で振り込みのみ親へ依頼があった。オープンキャンパスへは参加していない。すべてスマホで済ました。

説明を聞きながら感じたのは、高校生へのアピールと高校へのは変わってくる。

大学との差別化をどのように考えるか。売りは何かを示すことは重要ではないか。それを教育カリキュラムのなかへ反映されていると思うが、売りは一貫して考えたほうが良いと考える

岡山の大学へ入学したが、1 回生から週 2 回の病院実習を実施している。その後関連病院へアルバイトに行っているが、臨床の場を目の当たりにし変わってきた。関連施設の利用は有効と考える。

学校長 3 年制と 4 年制では明らかに 1 年間の学費が違う。牛井は安い・早いでよいが、学校ではウマイも必要である。このウマイをどうするかが重要。

評議員 B大学のパンフには大学と専門学校の違いが書かれていた。安い・早い保護者の求めるところである。

学校長 安い・早いだけでは学生は来ない。「ウマイ」は、卒業ができ国家試験に受かることである。また、特殊なことができることも重要。

議長 基準10 社会貢献・地域貢献について説明を求める。

教員6

#### 基準10 社会貢献・地域貢献

- ・ 学校の中へ来てもらう貢献と、学校を出て行つての貢献とがある。
- ・ 中学生のトライやるウィークの受け入れ。
- ・ 各種職種、業界団体の会議や研修などの場として提供。
- ・ 地域の高齢者又は小学生から大人までを対象とした公開市民講座や、各学科の特色を出した検査・測定など。
- ・ ボランティア活動
- ・ 地域、グループ関連施設での講座・講演など。
- ・ 各学科の出前授業等として宣伝を行い、申し込みがあれば学外へ出ていく。
- ・ 神戸大学との共同研究。コグニケアへの参加。

議長 質問、意見はないか。

議長 全体に対しての意見はないか。

評議員 教員の研修や講習等へ学校からのサポートはあるか。

学校長 年1回の学会参加への経費負担の実施。技術の維持習得のための臨床活動の推奨。教育技術の向上のため、大学院進学への推奨。これらの実現のため、就業規則を改定した。

学生を集めるのは努力しても成果が出にくい。各種情報発信方法を利用し、集めていただきたい。

評議員 実習生に対するハラスメントに気を付けている。実習の際に学校から強いサポートがあれば助かる。なれない環境への不安も多分にあると思われる。

学校長 平成31年度実習前のバイザー会議に、ハラスメント対処マニュアルを作成し配布している。

評議員 様々な学生がいると思うので、学校からも手厚いサポートをしてもらえれば、指導者も注意しながら安心して指導できる。

評議員 卒業後は学校と疎遠になるが、このようなつながりを使って、資源の一部としていきたい。

評議員 4月よりSTは呼吸疾患が入る。学生時代に合同授業があれば、POSのつながりができ、様々な知識をもらえる。STは1人職場が多く、PT.OTから学ぶことが多い。合同授業を通してつながりを持てば就職してからもつながると考える。

学校長 チーム医療が大切である。学生がミックスしたかたちでの授業があれば、効果的と考える。授業の実施方法も考える。

評議員 学校の中で一つの話題として、同一教員から授業を受けることは良いことと思われる。

学校長 学内教員が他学科へ行つての授業展開することが必要と考えている。

評議員 現場では理学療法士から車いすへの移動方法を教わった。AEDの使い方は臨床工学技士から習うなど交流があり効果的であった。

教員4 チーム医療の一環とし、糖尿病と職種とのかかわりについて、全学科の教員に授業に来てもらった。職種による視点の違いや幅広くケアされていることがよく分かった。学校にいる間から、他職種が同じ患者さんに対しケアしている内容を知ることによって、価値あることが分かった。

評議員 学校にいる間から、他職種が同じ患者さんに対しケアしている内容を知ることによって、価値あることが分かった。

評議員 一緒の空間で学べることは大切である。

議長 運営の協力に対し謝辞。

司会 最後に学校長より挨拶をいただく。

学校長 外部からの視点は重要であり、とても参考になった。引き続き評議員としてご指導を  
いただきたい。

司会 終了宣言